

# 車やオブジェ…熱気の工作塾

## ボランティア最前線



小枝やつるを使ってオブジェづくり  
スタッフも手伝ってウチワづくり  
お父さんも汗かく、糸ノコで車作り

「車つくった」「ウチワきれいでしょ」——〈夏休み工作塾〉が8月19日、研修館ホールで開かれ300人を超す親子連れの熱気と歓声で終日にぎわいました。大人気のイベントなので6サークルと本部からスタッフ80人が出て、子供たちの世話をしたり、アドバイスしたり。汗だくの一日を追いました。

8時半。協会側の5人（受付担当）とスタッフが勢ぞろい。作業テーブルを並べ、用意した300人分の工作材料や作業をチェックします。混乱を避けるため、今年から入場料300円をとって午前・午後それぞれ150人ずつに人数制限。子供たちは木工・草木染・織り染め・ネイチャークラフト・絵手紙・エコ工作など8つのメニューから3つを選ぶ方式に変更しました。

9時過ぎには子供たちや付添いの父母が続々と来場。10時のオープンと同時にお目当てのブースに走ります。一番人気はやはり木工。車や登り人形、モビールの材料が用意され、糸ノコを使ってゴリゴリ切るのが楽しそう。「ちょっと貸してみ」。お父さんも夢中です。見本の形に切って、色を塗って「ハイ、車のできあがり！」。子供の笑顔に、手伝ったスタッフも満足そうです。

織りぞめはウチワ作り。和紙に顔料で模様をつけ、ウチワの骨に張って完成です。「色付けはこうしてね」。スタッフがやさしく教えます。草木染めも玉ねぎの皮を顔料に、ハンカチに円や四角を染めぬぎます。ド

ングリや木片、小枝を使ったネイチャークラフトのブースも満員です。「何をつろうか」。あれこれ考え、材料を組み合わせ、自分流に仕上げるのが魅力のようです。

一方、昆虫採集は炎天下、ピオトープ一帯で行われ親子連れ60人が参加しました。お手伝いはピオトープの5人。午前中は捕虫網を持ってバッタ・トンボ・チョウ・セミなどを追いかけ、午後は研修館に戻って講師の指導で捕ってきた”獲物”を標本にしました。小3の男の子は「あんまり捕れなかった」と悔しそうでしたが、全体では30種ほどの昆虫が捕れたそうです。

午後3時。「ありがとう。面白かったです」。各ブースとも大きな混乱はなく、手作りの作品を持ち帰る子供たちの笑顔で終了しました。この催しには、木工18人・昔遊び19人・草木染9人・絵手紙4人・エコ工作3人・竹細工2人・つる工作2人のほか、わ本部を含め82人がサポート役として参加しました。

「整理券方式にして例年よりスムーズに流れてよかった。1か月もかけて準備してくれた各サークルに感謝します。もっと子供たち自身にやらせるようにすれば良かったかな」と担当の岸本理事は振り返っていました。（広報・南形徹）=16面にも関連写真

